

自己紹介を兼ねた会社紹介

瀧本多加志



三省堂は辞書と教科書を中心にした出版社で、二〇二三年四月に創立一四二年を迎える老舗です。漱石の手紙にも、鷗外の小説にも、その名が出てくるほど古くから知られてきました。本屋さんの三省堂書店とは、ルーツは一つですが、百年以上前に企業としては分岐し、現在では経営も資本も別の会社となっています。ただ、「親戚付き合い」は今でも続いており、創立周年記念企画などでは連携することがあります。

国語辞典では、二五万語以上を収録する最大規模の『大辞林』、鋭い語釈と実感あふれる用例で知られる『新明解国語辞典』、いち早く新語を収録することで有名な『三省堂国語辞典』などを刊行しています。英和辞典では、かつては「コンサイス」「クラウン」で一世を風靡しましたが、現在では『ウィズダム英和辞典』が高校生向けの主力辞書として知られています。

一方、教科書では国語・英語の教科書を各種刊行しており、高等学校の英語教科書では「クラウン」を中心にトップシェアを争う部数を獲得しています。

ほかにも、『模範六法』を中心とした年度版六法や法律書、学習参考書なども刊行しています。

私（瀧本）は、一九八七年（昭和六二年）に三省堂に入社し、辞書、事典を中心に、さまざまな書籍の編集に携わってきました。最初に配属された編集部では、『言語学大辞典』という大型専門辞典を担当し、昨年、編集者として最後に関わったのが『日本映画作品大事典』という大型事典でした。最初と最後が「大ジテン」というのも、何かの巡り合わせかもしれません。

世の中に編集者という肩書きで仕事をしている人はあまたおりますが、辞書編集者というのは希少種と呼ぶべき存在で、昨今ではむしろ絶滅危惧種などとも言われています。辞書の編集を通じて、言葉について考えてきたことを中心に、少しでも興味を持っていたかどうかの話ができればと考えているところです。